
赤いコート

高野敢太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤いゴート

【Zマーク】

Z6994A

【作者名】

高野敢太

【あらすじ】

深夜の公園に現れるゴート姿の女。犯罪との関連も未定ですが、警察も動くが・・・。

某県K市の市街地の一角にこじんまりとした公園があつた。その辺りは繁華街から距離があり、夜10時ともなると人通りは減るのだが、遅い帰宅をするサラリーマンや近くのコンビニを利用する人がいて、深夜でも全く人気がないというわけではなかつた。

ある年の6月、その公園で深夜、奇妙な女を見たという人が次々と現れた。

女が公園にいるというだけなら何でもないのだが、その女は、気付くと目の前を歩いていて、すぐのように公園に入り、そこを素早く横切り、忽然と姿を消すのだと呟つ。そして、目撃者全員が口をそろえて「女はコートを着ていた」と言うのだ。

梅雨時だからレインコートを着ていても不思議はなかつた。だが、晴れて星が見える夜でもコートを着ているのが目撃された。

後ろ姿のみで、女の顔をはつきり見た人はいなくて、背格好も見た人によつてまちまちだつたが、話を総合すると、「コートの色は赤」「公園の端にあるトイレに入つていくこと」が更に共通点として浮かび上がつた。

そのうち、公園で女に追いかけられたとか、女が刃物らしきものを持つてているのを見たとか、

「あなたもしてみる?」と売春を匂わせる言葉をかけられたとか、トイレで覚醒剤の売買をしているらしいとか、犯罪めいた話が多く聞かれるようになつた。

こうなるとさすがに警察も無視するわけにはいかず、

深夜、2人の警官が公園の中や周囲を警邏けいらすることになった。

女性用トイレを調べる場合に備えて1人は女性警官だった。

警邏が始まって何日か後、公園前にパートカーを停めた男女の警官の前に、多くの田撃情報と同じように、コート姿の女が突然現れ、公園を横切り、トイレへと消えていった。

2人の警官は急いで彼女の後を追い、トイレの前で互いの顔を見てうなづくと、男性警官はトイレの入り口に立ち、女性警官は女性用トイレへと入つて行つた。

「ちょっと、いいですか」「出て来てください」「警察です。少し話を伺いたいんですけど」

などと言つ女性警官の声がドアをノックする音と共に聞こえていた。

しかし、2、3分経つ頃には、声も音も聞こえなくなつた。

不審に思つた男性警官が、女性用トイレに入つていいくと、床の上に赤いコートを着た女がうつぶせに倒れていた。

だが、それは女性警官だった。

刃物でめつた刺しにされた背中から溢れ出た血が、警官の夏の制服を赤く染めていた。
まるで赤いコートのよう。

一命を取りとめた女性警官によると、

背中にとってつもない痛みが走る直前に、
後ろから「あなたも着てみる?」という女の声が聞こえたという。

犯人は見つからなかつた。

そして、その事件以後、赤いコートの女は現れなくなつた。

ただ、後に、都市計画でその公園が取り壊されたとき、
トイレがあつた場所から、女性の白骨が出てきたそつだ。

(後書き)

ありがちな話で済みません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6994a/>

赤いコート

2010年10月23日01時18分発行